

分科会の趣旨

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、国民の学校教育に対する期待に応えるためには、しなやかな知性と豊かな人間性をもつ子どもの育成を目指し、教育活動の直接の担い手である教職員が資質・能力をより一層高め、教育力を向上させることで揺るぎない信頼を確立することが求められる。教職員は子どもの人格形成に大きな影響を与える存在である。

これからの教職員に必要とされる指導力は、教科指導・生徒指導・学級経営等の能力に加え危機管理能力や保護者等への対応力等をも含めた総合的な指導力であり、児童や学校・地域の実情に合わせて柔軟かつ創造的に指導内容・方法を選択し、指導の充実を図っていく能力である。加えて、教職に対する強い情熱をもち、教育の専門家としての確かな力量を身に付けなければならない。

そのために、今、教育現場が直面する課題を解決する中で、教職員一人一人が自信と意欲をもって教育実践に取り組むための研究・研修体制の確立が求められている。

また、教職員の資質・能力の向上と同時に学校活性化や経営方針の具現化と改善を図り、次代の学校経営のために、校長は日常の教職員相互のかかわりの中で実践的な指導力が発揮でき、しかも将来の管理職人材となるべき教職員や組織を育成することが求められている。

本分科会では、教職員の資質・指導力の向上を図り、展望や参画意識をもたせ、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立と学校の中核を担うミドルリーダーや次代の学校経営を委ねる管理職人材を、校長として学校現場において育成していくための具体的方策を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1) 教職員としての資質や能力を高め、指導力と意識改革を促す研修の充実

学校の教育力を高める要は、個々の教員の指導力の向上と共通の目標の達成に向けて機能する教員集団を育成することである。教員の資質・指導力向上のためには、職場の同僚同士のチームワークや学び合いによる全員のレベルアップを図る視点と、個々の教員の能力向上を図る視点の両方を適切に組み合わせることが重要である。また、絶えず実践の中から成果と課題を検証し改善していく体制を整えていくことが必要である。

校長は、教員一人一人の意識改革を促し、学校教育目標の実現に向けて、自校の実態や目指す姿を明らかにしながら、重点課題を絞り、教員の資質・能力が高まる校内研究体制の在り方を追求していかなければならない。

このような視点から、教員の資質・能力の向上を目指す校内研究の推進、展望や参画意識をもたせる研修を推進していくための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 確かな展望と変化の時代に対応でき、次代の学校を担うミドルリーダーや管理職の育成

次代を担う人材に求められる資質・能力は社会性、人間関係調整力、コミュニケーション力、行動力、判断力などの柔軟かつ迅速な対応力と豊かな人間性であり、確かな展望と学校経営者としての確固たる信念である。

管理職を目指す人材の減少が課題となりつつある今、変化の時代の学校経営を担う人材の育成は、急務である。こうした状況の中で、管理職を担いえる人材の発掘と意図的・計画的な育成のために校長が果たすべき役割と指導性を究明する。